

財団活動のいま……

観光政策研究部

当財団の新しい観光人材育成プログラム 『観光地経営講座』を開講！

当財団では、観光分野の人材育成事業に一九六〇年代から取り組んでいます。特に地域における観光振興の担い手を対象とした人材育成プログラムについては、一九九七年度（平成九年度）の「観光リゾート基礎講座」（二〇〇二年度に「観光基礎講座」と名称変更）以降、毎年継続して開催してきました。さらに二〇〇三年度（平成十五年度）からは「観光実践講座」を追加し、当財団の二大プログラムとして実施してきました。

- ・両講座に共通する特徴としては、
- ・当財団調査研究分野のこれまでの

経験とノウハウを活かした独自の視点と切り口でプログラムを構成

- ・参加者同士の意見交換や講師との交流を可能とする少人数制（約三十人）

にあります。特に「観光基礎講座」は、当財団の研究員が講師を務め、実践的な情報を交えながらも、観光に関する基礎的な知識の体系的習得に重きを置いたプログラム構成としています。一方の「観光実践講座」は、話題性のある地域やテーマ、あるいは半歩先ゆくテーマなどを設定し、外部から講師を招請、深く実践的な知識とノウハウの習得と地

域での実践者の支援を企図したプログラム構成になっています。

こうした当財団の経験とノウハウを活かして企画された両講座は、観光による地域振興に携わる地方自治体の担当者や観光推進組織、商工会議所、あるいは観光まちづくり団体や観光関連事業者の方々をはじめとする受講者から好評を博していました。

本年六月、両講座を統合、

新たに『観光地経営講座』を開講

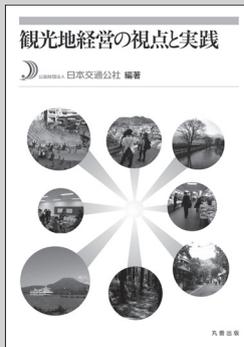
観光基礎講座は十七年間、観光実践講座は十一年間にわたり開催してきましたが、昨年度（二〇一三年度）を最後に終了とし、本年度からは新たに両講座を統合した『観光地経営講座』へとリニューアルしました。

同講座は、観光基礎講座、観光実践講座の特徴を踏襲しつつも、これまで当財団が培ってきた経験とノウハウを「観光地経営」という視点で整理した内容で構成され、より充実したプログラムとなっています。

テキストには、当財団が旅行・観光分野の調査研究専門機関に改組

昨今の市場環境の変化に対応し、既存の観光地が活性化していくためには、観光地全体をマネジメントしていく「観光地経営」という考え方が重要です。本書では、それを実現させるためのポイントを8つの視点から提言するとともに、全国10カ所の参考となる実践例を取り上げ、その学ぶべき点について丁寧に解説しています。

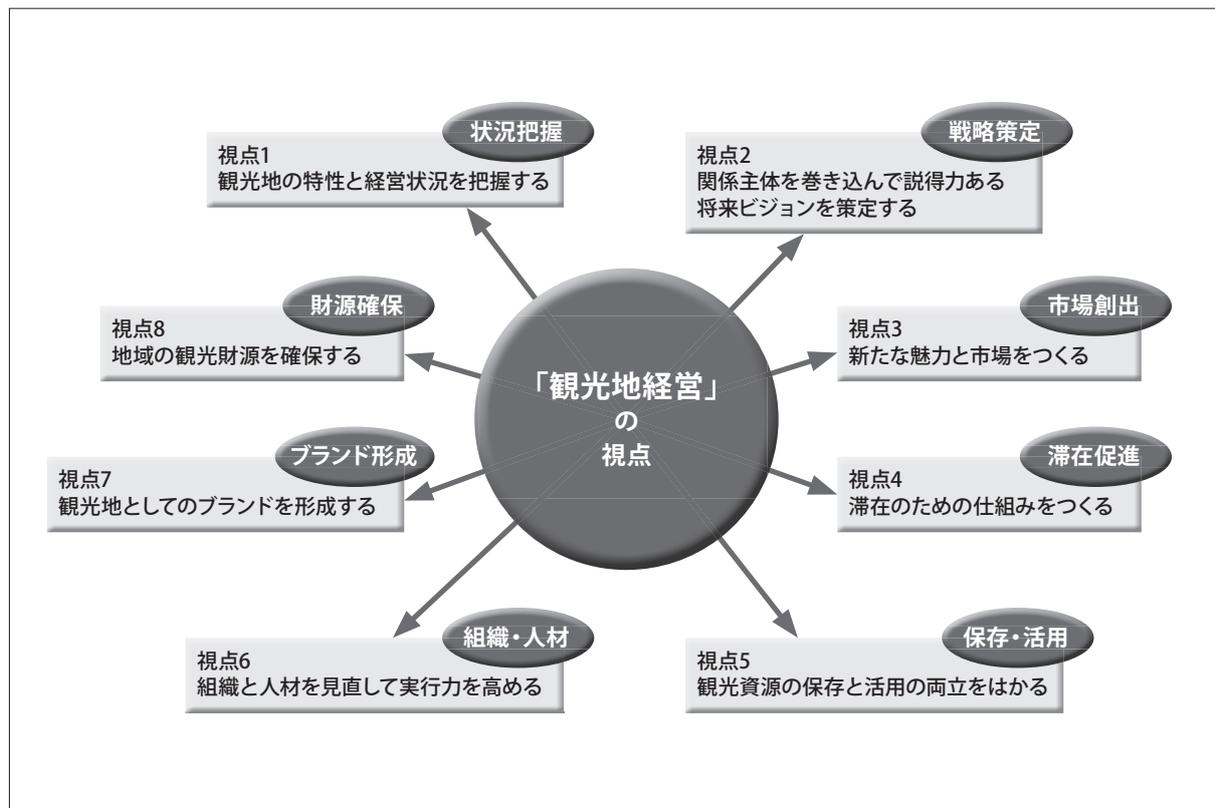
発行日：2013年12月
仕様：B5版 230ページ
定価：本体2,800円+税



して五〇周年の記念事業として発行した『観光地経営の視点と実践』（二〇一三年十二月発刊、丸善出版）を使用しています。

観光地における人材は、大きく①リーダー、②コーディネーター（企画・調整者）、③オペレーターに分類できますが、多くの観光地では、特にコーディネーター（企画・調整者）の人材不足と人材育成が急務の課題となっています。『観光地経営の視点と実践』は、こうした課題を

図1 「観光地経営」のための8つの視点



解決する一助となることを意図して
 発行された書籍であり、観光地経営
 講座も観光地全体をマネジメントす
 る「コーディネーターの育成」を強
 く意識した内容となっています。

『平成26年度・観光地経営講座』
 の概要

二〇一四年（平成二十六年）六月
 二十六～二十七日の二日間にわたり、
 当財団大会議室を会場に、
 平成26年度・観光地経営講座
 『観光地経営の8つの視点』と実践

を企画し、開催いたしました。

今回は、8つの視点(図1)のなか
 でも、特に視点6「組織・人材」に
 焦点を合わせ、「観光推進組織の現状
 と課題」「これからの観光推進組織・
 体制のあり方」「観光地経営の担い
 手として求められる人材の育成」な
 どについてより深く学びました。

今回の講座は、8つの講義から構
 成されていますが、いずれも当財団
 の研究員が講師を務めています。

講義1では梅川理事・観光政策
 研究部長が本講座の要諦をなす「観
 光地経営の8つの視点」について概

観し、続く講義2では塩谷次長・主
 席研究員と相澤主任研究員が旅行
 市場の動向を分かりやすく解説し
 ました。

そして、当財団の研究員がそれぞ
 れに深く関与した地域の事例として、
 講義3では梅川が北海道釧路市阿
 寒湖温泉を、講義4では福永研究
 員が三重県鳥羽市鳥羽温泉郷を、講
 義5では後藤研究員が大分県由布
 市由布院温泉について8つの視点と
 の対応を踏まえて紹介しました。

今回は、外部から特別講師とし
 て、先進的な観光まちづくりで知ら
 れる山梨県富士河口湖町の久保拓
 夫氏と八ヶ岳南麓（山梨県・長野県）
 の観光事業者が立ち上げた「一般社
 団法人八ヶ岳ツーリズムマネジメン
 ト」の小林昭治氏をお招きし、その
 取り組み、乗り越えてきた課題、今
 後の展開などについて、ご講演いた
 だきました。

写真1は、「講義8 組織を見直し
 て実行力を高める！」をテーマとし
 た総括ディスカッションの様子です。
 パネリストには久保氏、小林氏、そ
 してコメンテーターとして梅川、司



写真1 熱い議論が交わされた「総括ディスカッション」の様子

会進行を吉澤(筆者)が務めました。二日間を通じたキーワードは、「合意形成」をいかに図るか……」であり、ディスカッションでは二時間以上にわたり、観光ビジョン策定の手法から広域連携の難しさ、観光推進組織の役割、人材不足・雇用問題まで幅広い議論が熱く交わされました。これまで当財団が主催する人材育成プログラムは、一貫して、どんなに小さなことでも一歩踏み出していただき、動き出していただく、ア

クションにつなげていただく……、そうしたプログラムづくりを心掛けてきましたが、その精神はこの『観光地経営講座』においてもDNAとして引き継がれています。

今後に向けて

『観光地経営講座』の受講者からは、二日間、貴重なお話をご講義いただきましてありがとうございます。テーマも興味のあるものばかりで参加させていただけて良かった。各事例すべてにおいて非常に分かりやすく、私の住む地域に多く活用できるものを学べたような気がする。

・各研究員の方々が長い時間と知見をかけてアウトプットしていただいた各講義は大変価値を感じる。特にコンサルティング業という机上での知識に偏りがちだと思っていたが、現場主義を貫いており、地域に即した実のある報告で大変ためになった。といったご意見を頂戴しています。こうして培った経験とノウハウは、

■開催概要

平成26年度 観光地経営講座 観光地経営の“8つの視点”と実践 ～組織を見直して実行力を高める！

*8つの視点:

- ①状況把握、②戦略策定、③市場創出、④滞在促進、⑤保存・活用、⑥組織・人材、⑦ブランド形成、⑧財源確保

- ・開催日時:平成26年6月26日(木)～27日(金)
- ・場所:公益財団法人日本交通公社 大会議室
- ・対象:観光による地域振興に携わる地方自治体のご担当者、観光関連事業・商工会議所などのご関係者
- ・主催:公益財団法人日本交通公社
- ・協力:山梨県富士河口湖町、一般社団法人八ヶ岳ツーリズムマネジメント

◎プログラム

- 講義1 観光地の視点と実践～8つの視点を概観する(梅川)
- 講義2 国内旅行・訪日旅行市場の動向と展望～市場の動向を理解する(塩谷・相澤)
- 講義3 北海道釧路市阿寒湖温泉～観光地経営に適した組織づくり(梅川)
- 講義4 三重県鳥羽市鳥羽温泉郷～既存観光地におけるイノベーションの取り組み(福永)
- 講義5 大分県由布市由布院温泉～百年先を見越した観光地経営の実践(後藤)
- 講義6 山梨県富士河口湖町～行政主導から行政、観光事業者、住民、三者協働のまちづくりへ(久保氏)
- 講義7 八ヶ岳観光圏(山梨県・長野県)～観光地域づくりプラットフォームの役割とは(小林氏)
- 講義8 総括ディスカッション(久保氏、小林氏、梅川、吉澤)

を招請し実践的な講義やトピックスな話題提供を組み込み、受講者の関心にも配慮するなど、さらに一層、同講座の内容の充実を図り、地域における観光地づくりの実践に寄与したいと考えております。

(主席研究員 吉澤清良)

立教大学の寄付講義である「観光地づくり」や(株)ジェイティービーの観光プロデューサー育成のためのDMP研修などにも生かされています。当財団では、講座内で紹介する事例などについては常に最新の情報となるよう留意する、外部から講師